

障害のある子どもの療育支援体制の充実

ポイント：障害のある子どもの在宅支援の推進

【継続事業】

○障害児等療育支援事業

障害児（者）施設等の有する機能を活用し、在宅障害児等に早期診断、適切な治療や訓練を実施し、また、在宅障害児等やその家族に対して適切な相談支援を実施することにより、障害の軽減や基本的な生活能力の向上、地域生活における療育・相談支援体制の充実を図る。

○児童発達支援センター等の機能強化事業

児童発達支援センターが、発達障害者支援センター（CAS）と連携を図り、同一の障害保健福祉圏域内の、他の児童発達支援事業所、放課後等デイサービス、特別支援学校、保育所、児童相談所、保健所、市町村等とネットワークを構築し、情報共有のための会議及び職員の支援技術向上のための研修を実施する。

○療育支援コーディネーター配置事業

在宅の障害児等がライフステージを通じて一貫した療育支援が受けられるよう、医療・福祉・教育等関連機関の連携を調整する療育支援コーディネーターを配置する。

また、療育支援コーディネーターの連絡協議会を開催するとともに、地域生活支援事業を活用し、市町村における療育支援コーディネーターの配置を促す。

○発達障害者支援体制整備事業

発達障害児等の親が安心して子育てできるよう、発達障害児の子育て経験を生かして相談・助言を行うペアレントメンター・コーディネーターの配置を進める。

○小児等在宅医療連携拠点事業

在宅医療を必要とする小児等が、在宅において必要な医療・福祉サービス等が提供され、地域で安心して療養できるよう、福祉や教育などとも連携を図り、相談支援専門員や訪問看護師等への研修等を実施し、地域で在宅療養を支える体制を構築する。